07-202-1412

アルフェック®
ボイジャー 415
取扱説明書

ARFEQ® VOYAGER 415 OWNER'S MANUAL

ARFEQ™
PRODUCED BY mont·bell

警告

CAUTION

カヌー（パドルスポーツ）は、場合によっては使用者や周囲の人を危険に陥れたり、死傷事故を誘発する可能性のあるスポーツです。カヌーまたはそれに係わる製品を使用する方は、傷害を負ったり、死亡する場合もあり得ることを理解しておかなければなりません。また、事故を防止するためにも、製品を使用する前には必ず取り扱い説明書を熟読し、その指示に従ってください。

はじめに

このたびは、ARFEQ「ボイジャー415」をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
本取扱説明書は、「ボイジャー415」を正しくご使用いただくために必要な事がらや、取り扱い上でご注意いただく点について説明しています。「ボイジャー415」をご使用になる前に必ずお読みください。お読み頂いた後もお手元に大切に保管して置いてください。

＜目次＞

1 概要
2 ご使用になる前に
3 ご使用上の注意
4 ボイジャー415 組み立て方法
5 分解、収納
6 仕様、その他
7 保守管理
8 修理依頼書

1. 概要

○「ボイジャー415」は世界でも類を見ない、独自のテンションシステム、高い防水性を備えた超軽量、コンパクトかつ丈夫なフォールディングカヤックです。

○「ボイジャー415」は、工具を必要としないアルフェック独自のテンションシステムで艇の前後方向に「てこの原理」を応用した簡単な操作で強いスキンテンションをかけることが出来ます。強いスキンテンションは流水抵抗を減少させると共にフレーム全体を引き締めることによって艇全体の剛性を向上させています。（特許取得済）

○「ボイジャー415」は、組み上がったフレームを船体布に挿入する際、フレームと船体布の中心を一致させられるよう船体布側にキールレールガイドを設けています。（特許取得済）

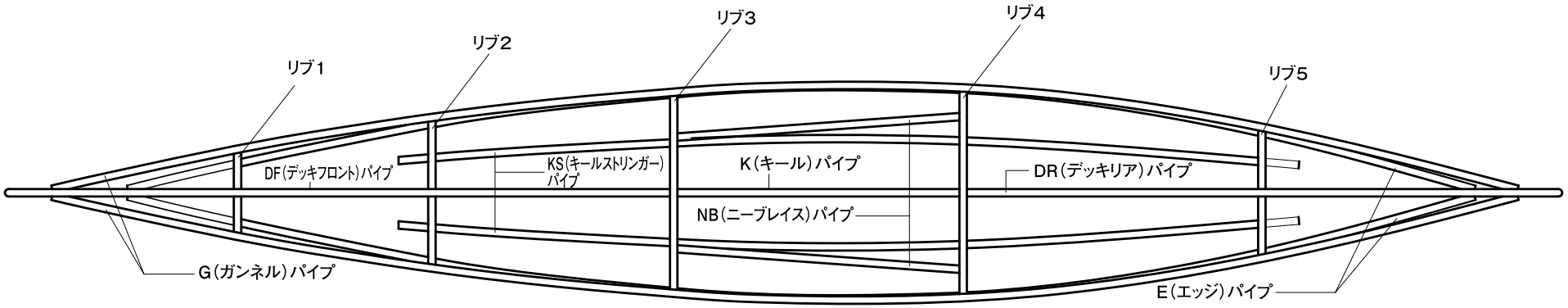
○「ボイジャー415」は、フレーム素材に錆びにくく強度に優れる「6061T8アルミニウムパイプ」使用して柔剛構造フレームで設計されています。艇全体は漕行時に十分な強度がとれるように設計されると同時に船体布、フレームが人間の身体のように多少柔軟性を持って衝撃を吸収し、こわれにくく出来ています

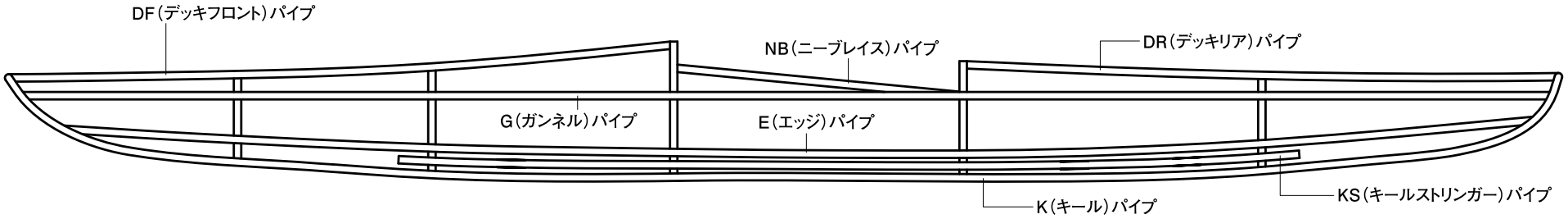
○「ボイジャー415」は、デッキクロスに、耐久性に優れたターポリンを使用しています。ボトムクロスには強度と耐久性に優れる高強力ポリエステルクロスハードターポリンを使用しています。破損しやすいフレームパイプ沿いの底部には、2倍厚補強テープを施して強度を高めています。さらに補強テープと底部の間には2mm厚の衝撃吸収シートをサンドイッチ。ボトム部破損となる原因を大幅に減少させています。（特許取得済）

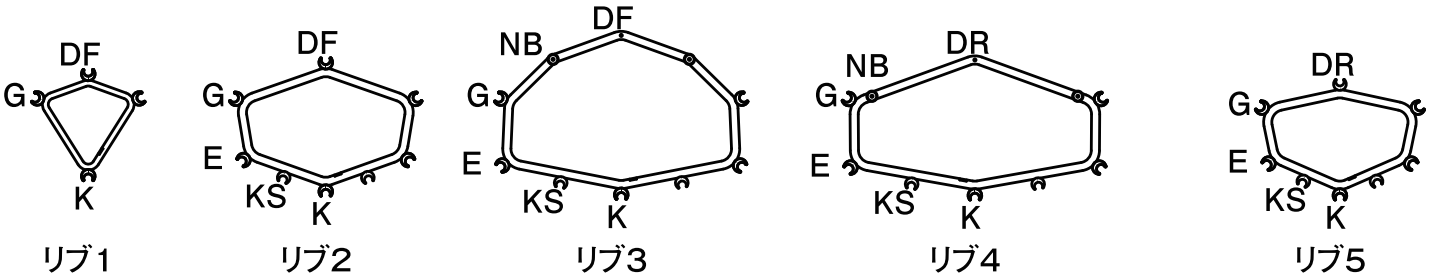
○「ボイジャー415」は、水に濡れにくく、長時間座っても疲れにくいシートを採用。背もたれの角度を自由に調節できます。

○「ボイジャー415」は、より高い防水性を実現するためにデッキクロスとボトムクロスはウエルダー加工（熱溶着）を採用しています。ウエルダー加工された接合面は完全防水となり、ドライで快適な居住空間を実現しています。（特許取得済）

ボイジャー415 フレーム名称







2　ご使用になる前に

○梱包内容の確認
梱包箱を開けたらまず、付属品などの梱包内容がすべて揃っていることをご確認ください。
製造にあたっては、万全の注意を払っておりますが、万一、梱包内容が不足していたり、損傷しているものがある場合は、お買い上げの販売代理店もしくは当社までご連絡下さいますようお願いいたします。

ボイジャー415 梱包内容

・フレームパイプ
（K×1本、G×2本、E×2本、NB×2本、DF×1本、DR×1本、KS×2本）
・クロスリブ（1～5）各1個　・船体布×1式　・シート×1セット　・フットブレス×1本
・キャリングバック190L×1個　・フレームスタッフバック×1個　・エアポンプ×1個
・リペアセット×1式　・取扱説明書×1冊　・オーナー登録カード×1枚

○オーナー登録カードは、「ボイジャー415」をご使用になるお客様にサポートを行う際の資料とさせていただきます。お手数でも必要事項をご記入の上、当社までご返送ください。

3　ご使用上の注意

○「ボイジャー415」はアルミを主としたフレームと生地で作られています。底が付いてしまうような浅瀬、及び操作しきれずに岩等に激突するような場所では破損の原因となり危険です。また沿岸では、潮の干満や潮流のはやさも十分に考慮してください。湖、大河、沿岸等で使用する際、気象の変化により、思いもよらぬ突風、強風が吹く場合があります。人力に頼っているフォールディングカヤックの特性をよく理解し、無理せず安全にお使いください。

○「ボイジャー415」は現在までに得られた経験と現在得られる技術の粋を集めて製造されたものですが、材料の疲労寿命など未だ解明されていない事があります。磨耗や破れ、故障やその兆候などがないか、ご使用前には機材の点検は入念に行ってください。

○テンションシステム（船体布を引っ張る機構）の使用方法をよく理解してからご使用ください。
間違えますと破損の原因となります。またフレームパイプのジョイント部分が伸びている等、正しく組み立てられていない状態でテンションを掛けると各部が破損する場合がありますのでご注意ください。

○「ボイジャー415」に乗るときは安全を心がけ必ずライフジャケットを正しく着用してください。ヘルメットは常に携帯し沈（横転）した時などに岩等で頭をぶつける危険性のある場所では必ず着用してください。また機材には必ず名前、連絡先を記入してください。

○「ボイジャー415」に荷物を積む場合は、艇の安定、操作性が損なわれない程度の量とバランスをよく考えて積んでください。一般的に、静水時にデッキに水がかぶる程積載するのは危険ですのでおやめください。また重い荷物はデッキの上には積まないようにしてください。艇の重心が上昇して横転しやすくなります。また荷物が少ない状態で乗る際は、フローテーションバック（別売）やシーソック（別売）をご使用されることをお勧めします。沈脱の際に艇への水の進入を最小限の抑えることが出来ます。

○艇内に水がたくさん入ってしまった場合は、そのまま持ち上げると水の重さでフレームが破損する場合があります。片面を水面、または地面に置き、少しずつ傾けながら排水します。また荷物が積載された状態で持ち上げると、破損する場合がありますので同様にご注意ください。

個人情報の取り扱いについて

〈個人情報の内容〉
モンベルグループ各社がお客様より収集している個人情報は次の通りです。
●お名前・ご住所・お電話番号・生年月日・性別・メールアドレス等
当社およびモンベルグループ各社では、個人情報は以下に述べる利用目的の場合にのみお客様より収集、利用させていただき、外部業務代行業者および下記例外を除き第三者に開示あるいは提供することはありません。

〈利用目的〉
●イベント等案内のダイレクトメール発送　●希望されたお客様に対するメールマガジン配信
●サービス向上のためのアンケート調査　●その他業務上必要と判断した際の連絡、発送

〈外部業務代行業者等〉
当社およびモンベルグループ各社では、業務上必要な最低限の個人情報を外部業務代行者に提供する場合があります。それらの外部業務代行業者等に対しては、個人情報の適切かつ安全な管理を義務づけております。

〈個人情報の第三者への非開示・非提供〉
お客様からご提供いただきました個人情報は、上記利用目的の場合、外部業務代行業者等に提供する場合を除いては第三者に開示または提供いたしません。

【お問い合わせ窓口】
株式会社モンベル /大阪市西区新町2-2-2
カスタマー・サービス　TEL.06-6531-3544　フリーコール: 0088-22-0031
ホームページ　http://www.montbell.jp

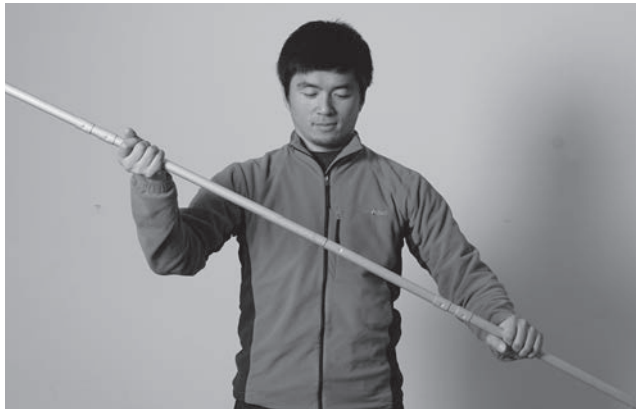
4 ボイジャー415 組み立て方法

(1) パーツ類のチェック

○フォールディングカヤックは最初の組み立てが肝心です。船体布にテンションを掛けエアチューブに空気を入れると船体布には強力なテンションが掛かります。そして船体布が少しのびてフレームに馴染みます。もしフレームが歪んでいたり、船体布のセンターがずれたまま組み上げてしまうと、歪みくせの付いた船体布になってしまいますので最初の組み立ては慎重に行いましょう。歪みの無い組み立てができたら1日程度、組み立てたままにして船体布をフレームに馴染ませましょう。こうすることによって次の組み立てがより簡単に正確になります。

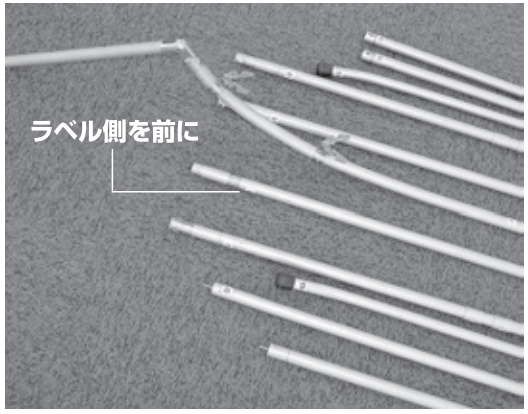
(2) フレームの組み立て

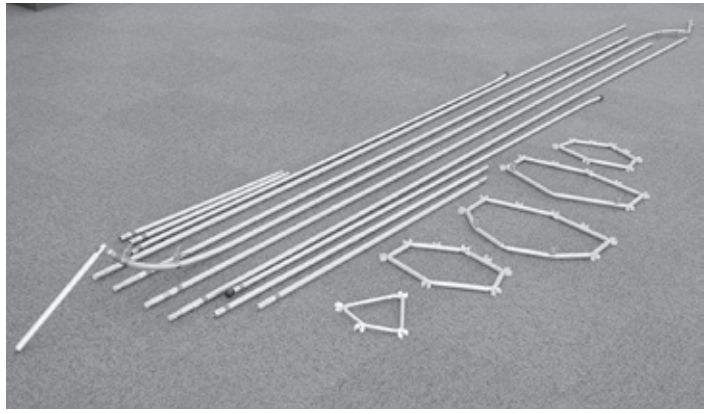
各パイプをつなぐ



パイプは水平の状態が一番つなぎにくいので(外すときも同様)、必ず斜めにしておこなってください。

各パイプを並べる

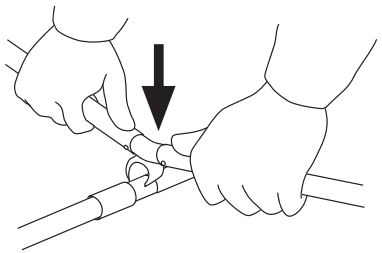




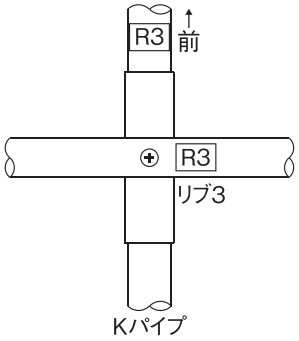
<注意>各パイプの名称ラベルとカラーテープが付いている方が前。
※赤→G(ガンネル)、青→E(エッジ)。これを間違えると組めないので注意。

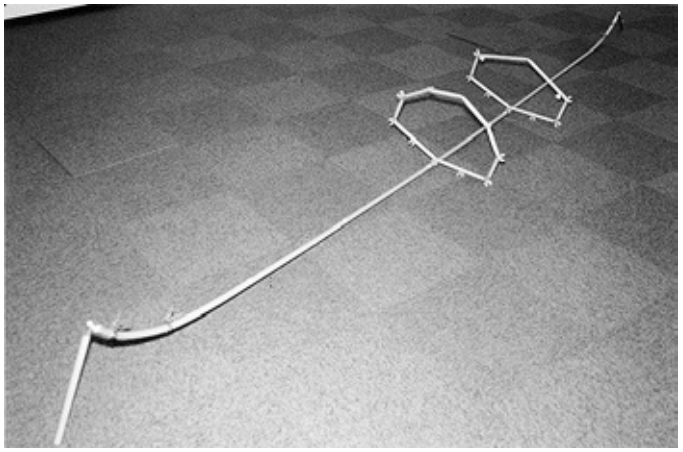
(3) Kパイプにコックピット部のリブを取り付ける

Kパイプの各リブ取り付け溝の前にあるステッカーとリブにあるステッカーのナンバー、向きを合わせてください。



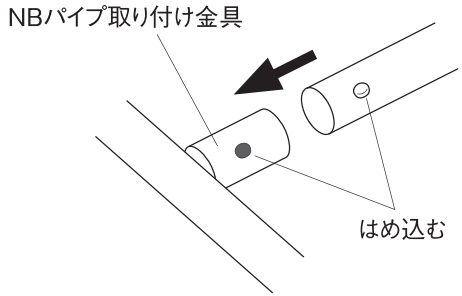
Kパイプの各リブの取り付け溝に、リブ3・4をステッカーの向きを合わせて図のように立てます。(NBパイプ取り付け金具が内側向きになるように取り付けます。)

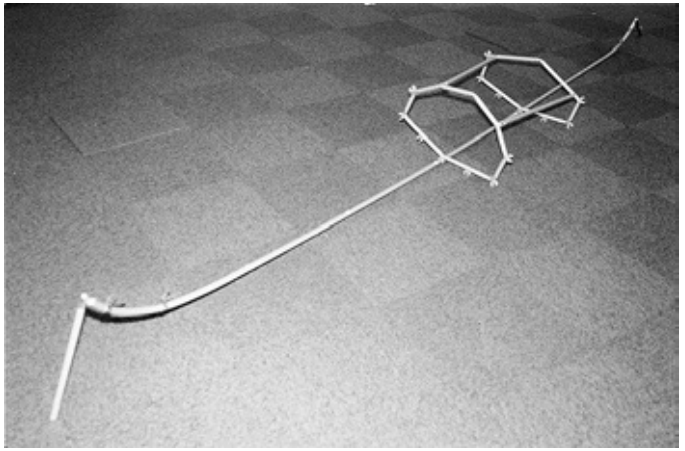




(4) NBパイプの取り付け

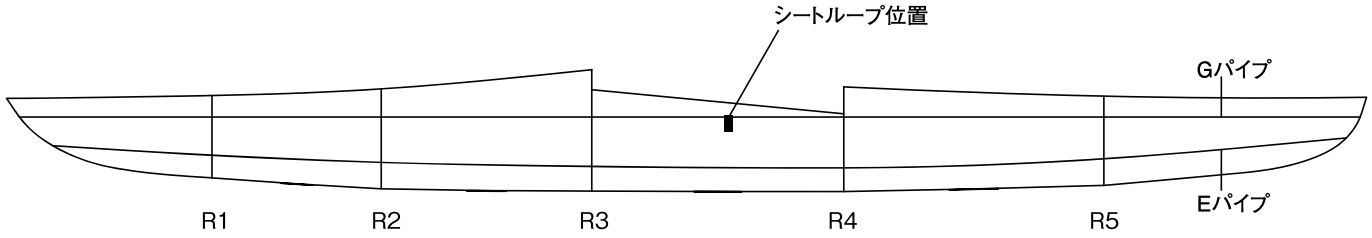
リブ3・4にNBパイプを取り付けます。(右写真参照)NBパイプ取り付け金具の穴にジョイントピンで固定してください。



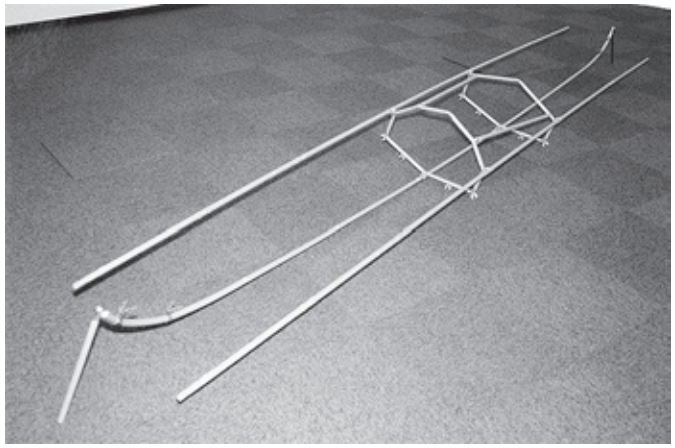


(5) シートループ位置の確認

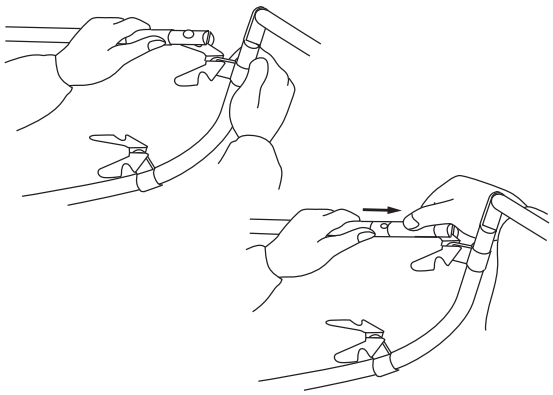
Gパイプを取り付ける前に、シートループをあらかじめ図のように移動しておきます。

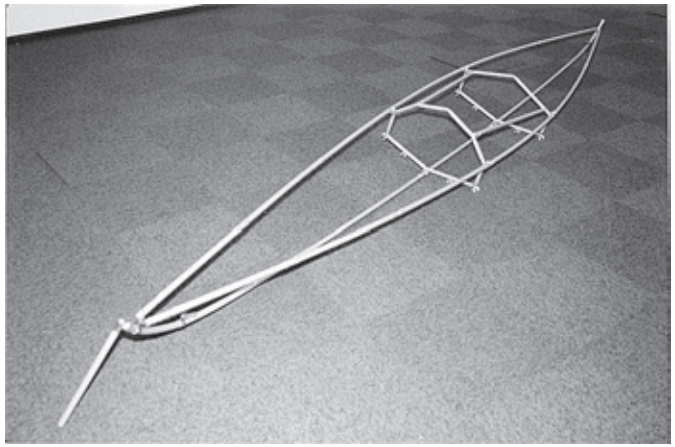


(6) Gパイプの取り付け



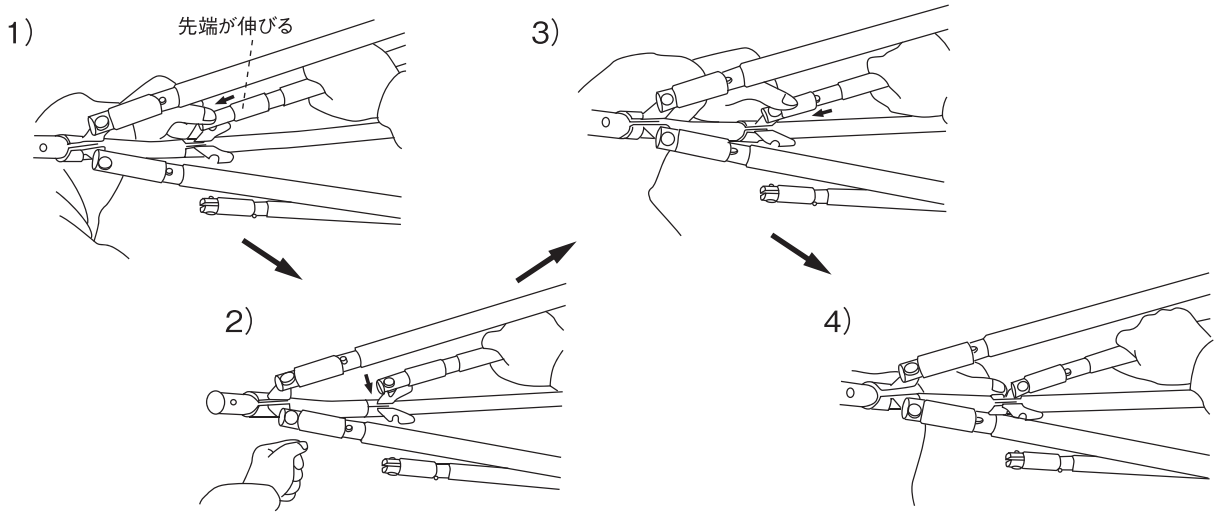
Gパイプの**前後を間違えないように注意**し、ストッパー（竹の節のような所）にリブ3･4のチャンネル（三日月型のパーツ）を取り付けます。（各ストッパーの溝の位置はGパイプの前後をKパイプのAタング（虫の翼のような金具）にあわせると確認できます。）

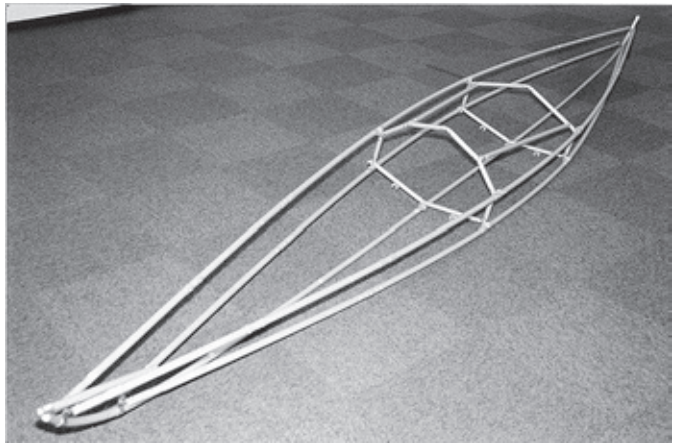




前のAタング（虫の翼のような金具）にGパイプ先端を取り付けます。取り付けは膝の上にKパイプをのせて、適度な反りがついた状態でおこないます。
一方の手でGパイプを引き寄せ、もう一方の手で金具の傾き調整、スライド操作をおこなってください。
＜注意＞Kパイプが地面にぴったり付いた状態でGパイプ先端を取り付けないでください。反りがつかない状態で組むと設計上長さが足りなくなるため、Gパイプ接続部を途中のばす原因となり、その結果フレーム全長が長くなってしまいます。ジョイント部取り付け部がずれていればKパイプを上下させてあわせます。Aタングの角度が合っていなければ修正してください。

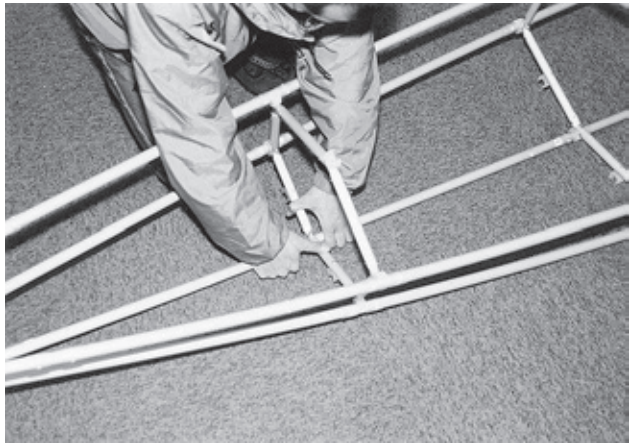
(7) Eパイプの取り付け

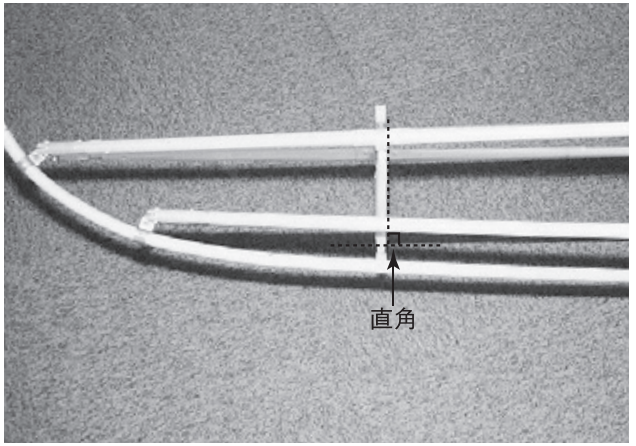




Gパイプと同様にEパイプを取り付けます。取り付け位置はKパイプと並べて確認してください。
※Eパイプの先端はGパイプとは違いのびるようになっていますのでAタングの位置に合わせて取付けてください。

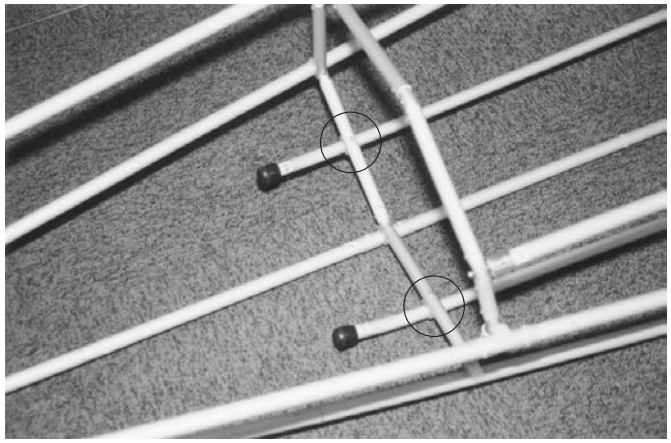
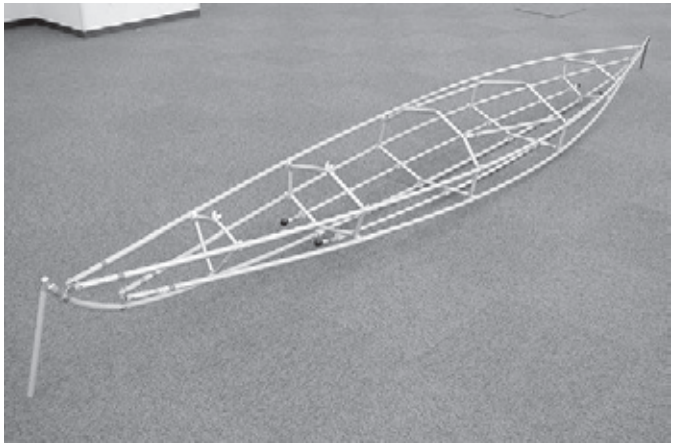
(8) 残りのリブの取り付け





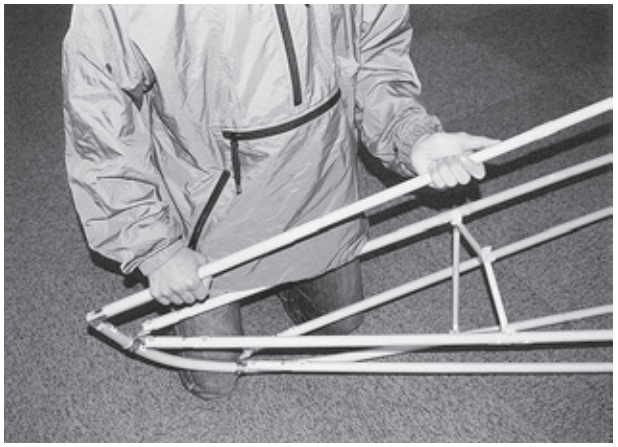
リブ2・5をGパイプ・Eパイプの各リブ取り付け溝（Kパイプのステッカー『2』『5』と同位置にあります）へそれぞれ取り付け、そのままKパイプに取り付けます。次に、リブ1をGパイプのリブ1取り付け溝へ取り付け、リブがGパイプとほぼ直角になるようにKパイプへ取り付けます。

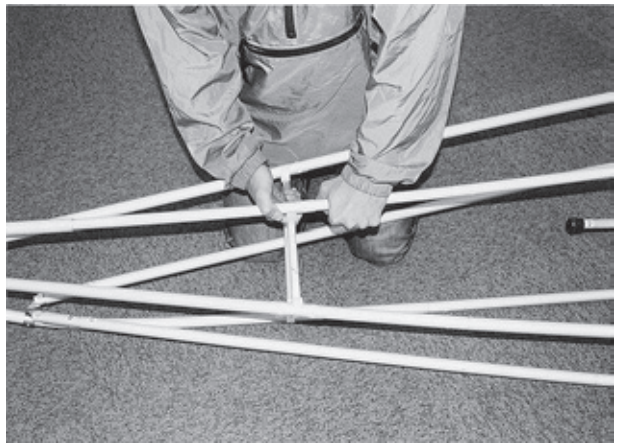
(9) KSパイプの取り付け

リブ2のチャンネル（三日月型の部品）へKSパイプの**直線部分の始まり**を取り付けます。
この時、曲がっている方（ゴムキャップ）が艇の内側を向くように注意してください。
そのままリブ3・4・5へ取り付けます。KSパイプの後端も内側を向けて取り付けてください。

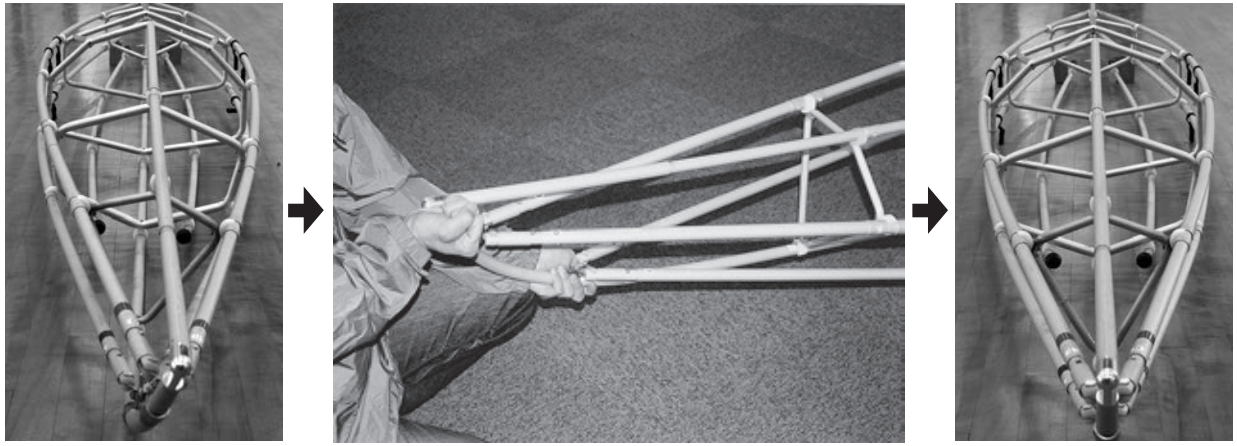
(10) DFパイプの取り付け



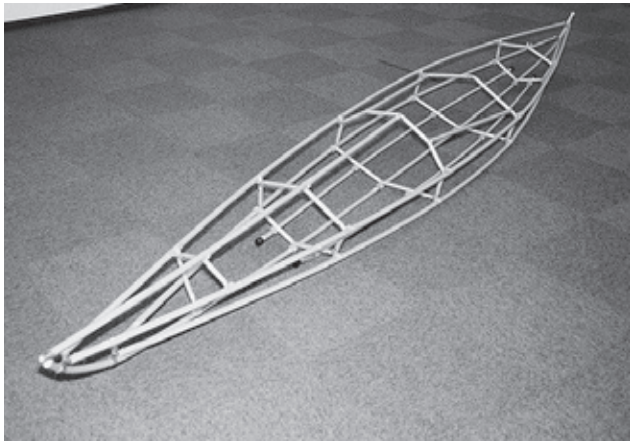


Kパイプ先端の可動パーツ（TB-F） にDFパイプのピンの無い方を差し込み、リブ3上部の穴にDFパイプの先端ピンを奥まで差し込みます。
次に、DFパイプの途中の、パイプが二重になっている部分がリブ2とリブ3の間になるように、DFパイプをリブに取り付けます。

(11)フレームのゆがみの修正



真上から見てDFパイプとKパイプが一直線上になければ、先端が左右どちらかに倒れていますので、軽くたたいて修正してください。

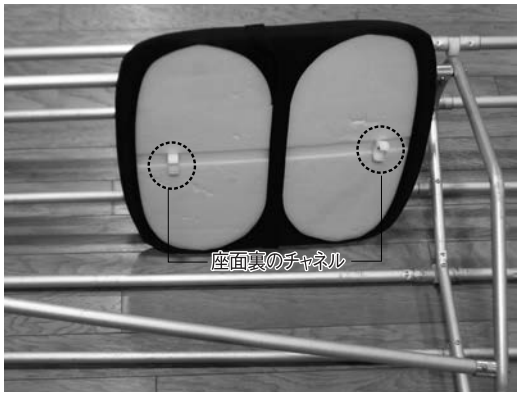


DRパイプを除くフレーム部分の組み立ては完了です。

※DRパイプは船体布にテンションを掛ける際に取り付けます。

(12) シートの取り付け

シートの取り付け方法

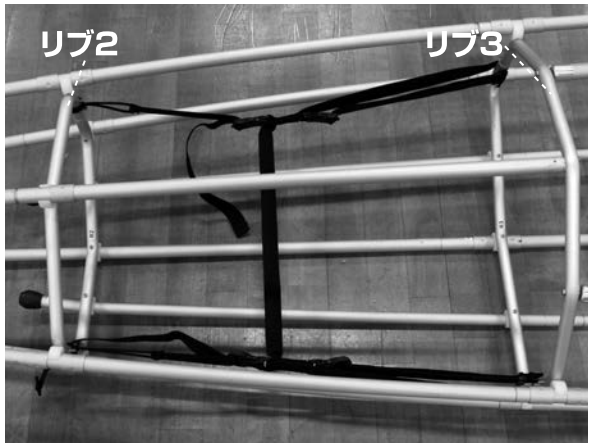


座面裏のチャネルをキールパイプに取り付け後、左右のテープをGパイプのシートループへ接続します。

次に背面の二重になっているテープの後側にあるテープをNBパイプへ取り付けます。
＜注意＞背面の前面のテープは船体布をセットした後に取り付けます。

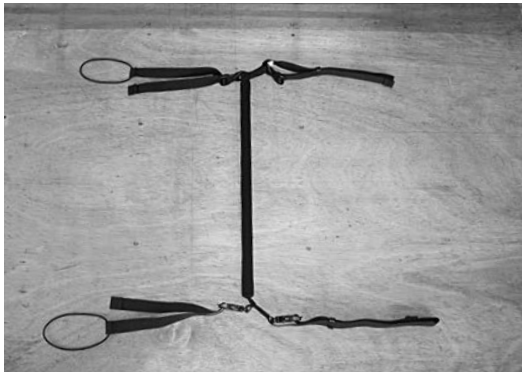
(13) フットブレイスの取り付け

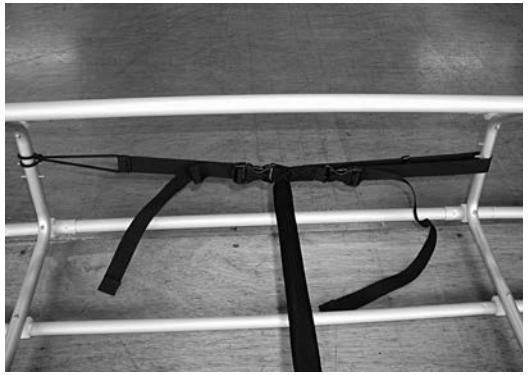
1.フットブレイスの取り付け位置

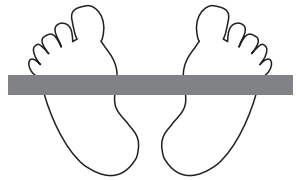


リブ2とリブ3の間

2.フットブレイスの取り付け方法







標準的な位置

リブ2にフットブレスのショックコード側を写真のようにループを通しておきます。次にリブ3にテープ側を写真のように通してバックルを接続します。(a)
この時、実際にシートに座り自分の姿勢に合わせてください。

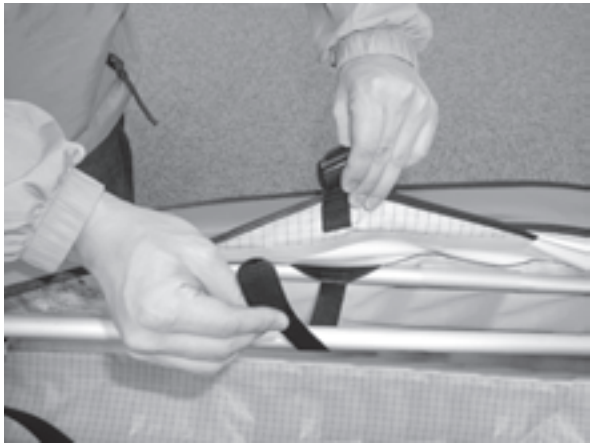
(14) フットブレイスの取り付け

1.船体布にフレームを入れる

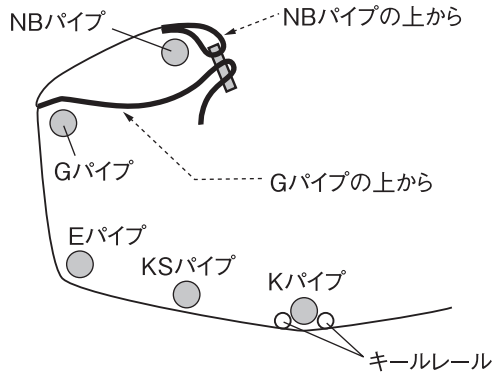
船体布を広げ、フレーム前後を間違わないように注意しながら船体布に入れます。必ずこれ以上入らないという所までしっかり押し込んでください。この時、キールレール（ボトム内側の中央にある溝）にKパイプを合わせて、センターがずれないように注意してください。

※エアチューブのホースがパイプに挟み込まれないように注意してください。

2.コーミングベルト,ファスナーバックアップベルトの仮止め

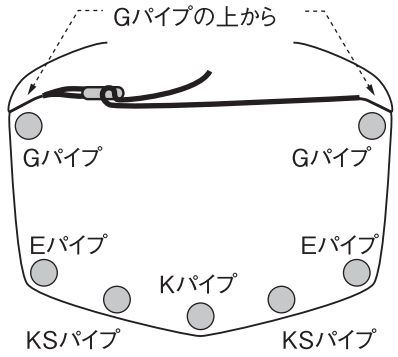


【コーミング断面図】



コーミングの横・内側にあるコーミングベルトを仮止めします。**下側のバックルのないベルトをGパイプの上へ引き上げ、上側のバックルの付いたベルトをNBパイプの上から巻き込み**上下のベルトをテンションを掛けないように軽くとめます。（断面図参照）

【リアデッキ断面図】

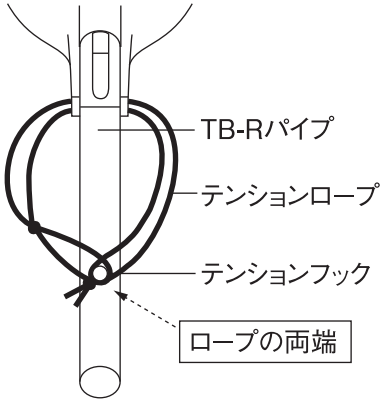


リアのデッキ内側のファスナーバックアップベルトを仮止めします（2箇所）。コーミングベルトと同様に三角布をGパイプの上に引き上げ左右のベルトを軽くとめます。

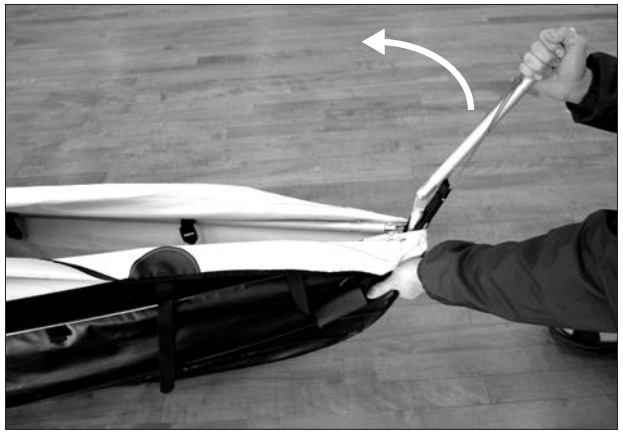
(15) 船体布にテンションを掛ける（無理をせず十分注意しておこなってください。）

1.仮テンションを掛ける

上図のようにテンションロープの左右を一度軽く引きます。

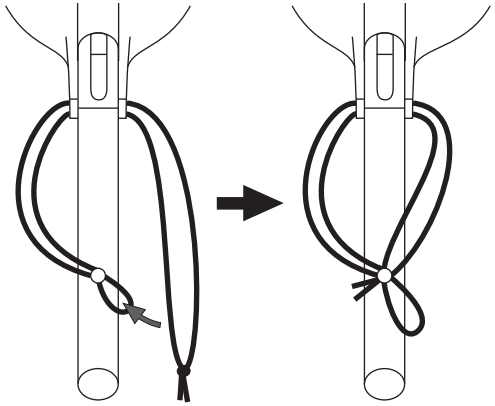


Kパイプ後端の可動パーツ（TB-Rパイプ）のテンションフック（裏側のボルト）へ船体布後部のテンションロープの両端をTB-Rの両側から掛けます。



そのままゆっくりとTB-Rパイプを起こしていきます。この時、Kパイプが船体布のセンターと合うように調整しながらTB-Rパイプを水平になるくらいまで倒します。

2.テンションを掛ける



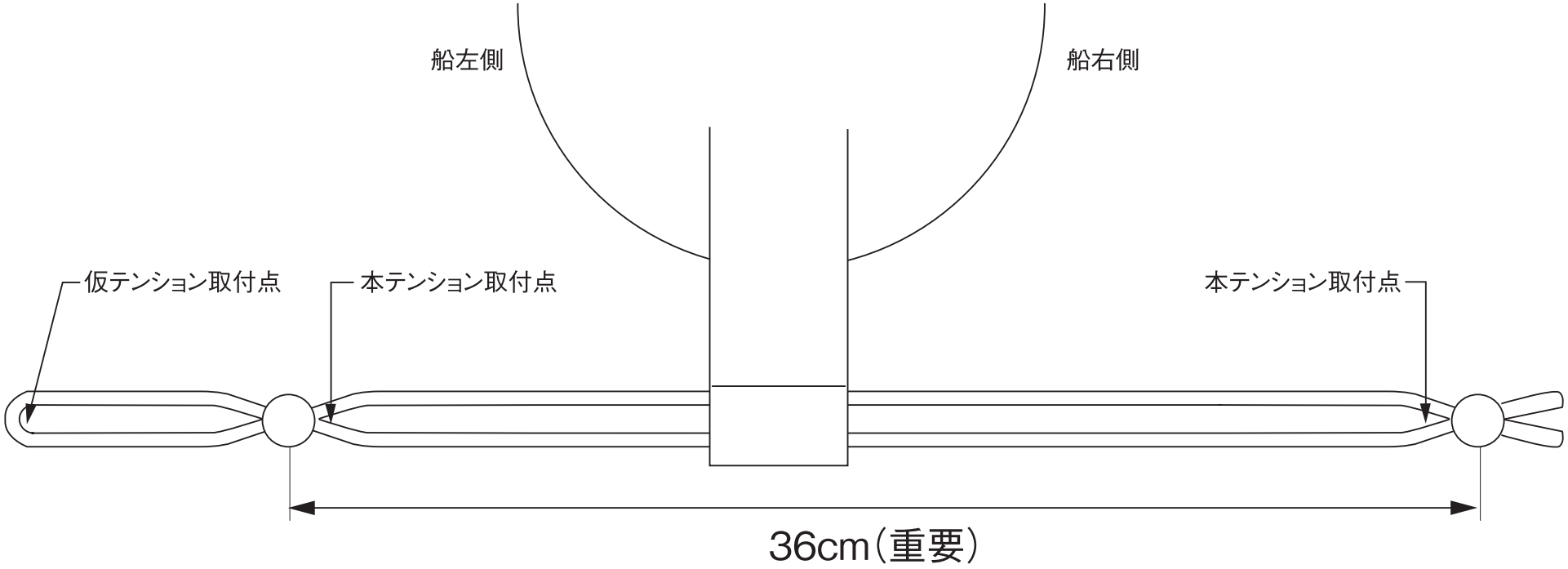
船体布のテンションをゆるめる際の注意

船体布にテンションを掛けた状態でTB-Rパイプから手を離すと、急激にTB-Rパイプが戻り危険ですので必ず手を添えてください。

テンションロープを必ず上図のように掛け直し、TB-Rをゆっくりと起こします。次にTB-RパイプにDRパイプを取り付けます。
DRパイプをTB-Rパイプの一番奥まで差し込んだ状態でDRパイプを倒してください。
＜注意＞TB-Rパイプへロープを掛け、テンションを掛けた状態でTB-Rパイプから手を離すと急激に戻り危険ですので必ず手を添えてください。

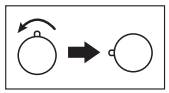
テンションロープの基本寸法

セットアップ時に船体布が上がらない、または船体布が入らない等の原因のほとんどは
テンションロープの基本寸法が伸びていることが原因です。
基本寸法を確認してください。



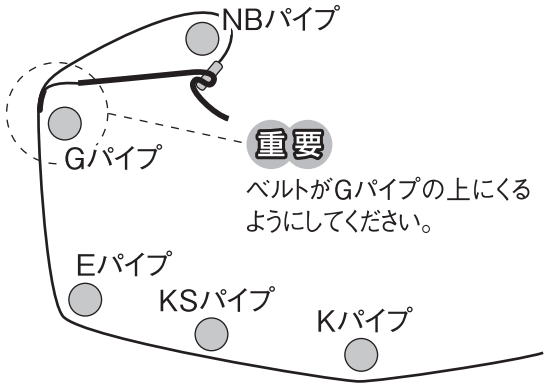
(16) DRパイプを固定し、船体布を引き上げる

DRパイプ先端のピンをリブ5の頂点の穴へ差し込み、ジョイントピンで固定します。次に、DRパイプをリブ6へ取り付けます。
その後、DRパイプを90度回してピンを横向きにずらしておきます。(図参照)



(17) コーミングベルト,ファスナーバックアップベルトを締め、ファスナーを閉じる

【断面図】



コーミングベルトがGパイプの上になっている事を確認し左右均等に締めます。(断面図参照)

リアデッキのファスナーバックアップベルトを締めてからファスナーを閉じます。

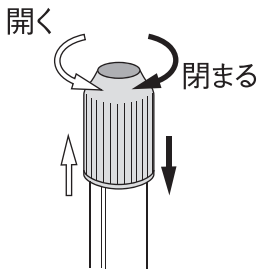
(18) 防水カバーのセット

ファスナーの端の部分を折り込みます。次に、左右2枚の防水カバーの生地を重ねて、角を内側に折り込みます。

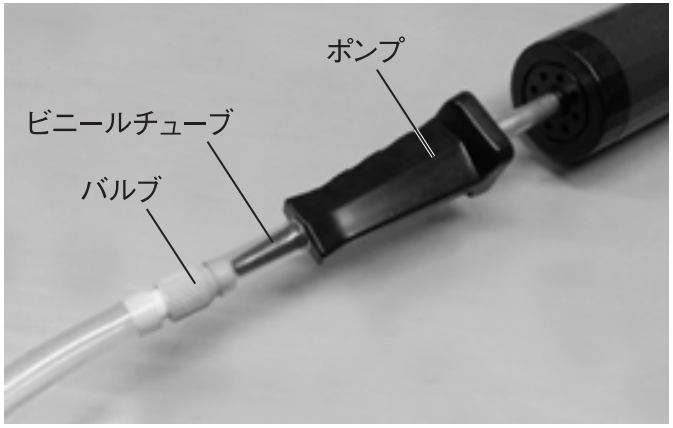
防水カバーの口部分のナイロンテープを芯にするようにしてマジックテープの付いている面が上を向くまでカバーを巻き込み、もう一方のフラップのマジックテープと合わせるようにセットします。
次に、グラブループ、スタンエンドカバーをセットしてください。

(19) シートを固定し、空気を入れる

シート背面の前側のテープをコーミング内側のバックルへ取り付け、テープの張り具合でシート背面の位置を調整します。



バルブを開いて空気を入れ空気が入った時点でバルブを閉めます。

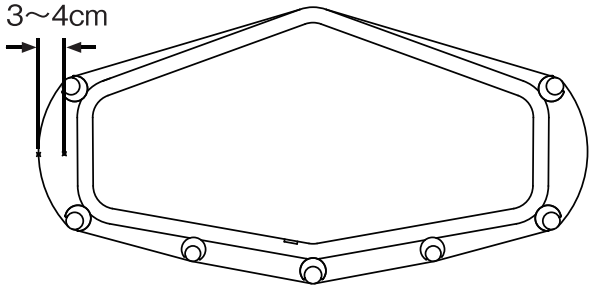


サイドエアチューブのホースの先端にあるバルブを開き、エアポンプと付属のビニールチューブをバルブにしっかりと差し込み、空気を入れます。艇を上から見て3cm～4cm程度ふくらんだ状態が標準です。(図1)
＜注意＞空気を入れすぎると、サイドエアチューブポケットに入り込んだ石のかけら等によりパンクするおそれがあります。また、気温の状態等により空気が膨張することがありますので、空気の入れすぎには十分にご注意ください。

(20) 完成

最後にテープのゆるみ、左右のバランス等をチェックし、問題がなければ完成です。

(図1)

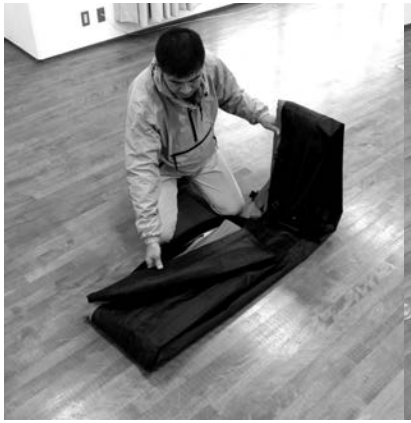


5　分解・収納

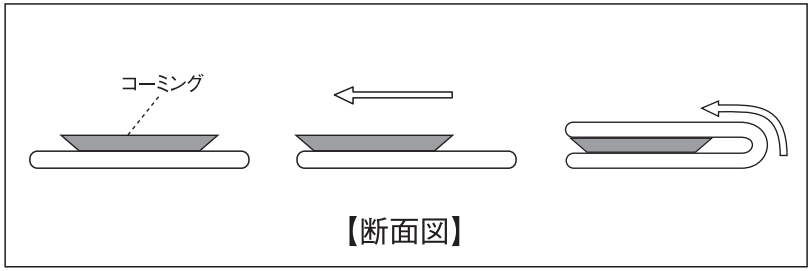
1. エアホース先端のバルブを緩め、エアチューブ内の空気を抜き、ある程度抜けた時点でシートとコーミングベルトを外します。
2. 防水カバー、ファスナーを開きます。次にDRパイプ先端のジョイントピンを押してリブ4からピンを抜き、DRパイプをTB-Rパイプから外し、
   そのままゆっくりとTB-Rパイプを後へ完全に戻してテンションロープをボルトから外します。
3. 船体布からフレームをゆっくりと抜き、フットブレイスを外します。次に、フレームをセットアップとは逆の手順で分解します。
   最後にフレームを折りたたみフレームケースへ収納します。
   《注意》フレームを端からたたむと中のゴムが均等な伸びにならないので、各フレームの中央付近の継ぎ目からたたむようにしてください。

船体布のテンションを ゆるめる際の注意	船体布にテンションをかけた状態で、TB-Rパイプから手を離すと急激にTB-Rパイプが戻り危険ですので必ず手を添えてください。

船体布のたたみ方



コーミングを船体布の中心から左端まですらしておきます。右側の部分を折り返してコーミングの上に載せるようにたたみます。次にコーミングの前端、後端に合わせて前後を折りたたみます。さらにコンパクトにしたい場合は、コーミング芯材をネオプレンのケースから取り出して船体布をたたみます。コーミング芯材は、2分割になっていますがネオプレンのケースごと2つ折にしないでください。ネオプレンのケースが破損する場合があります。



【断面図】

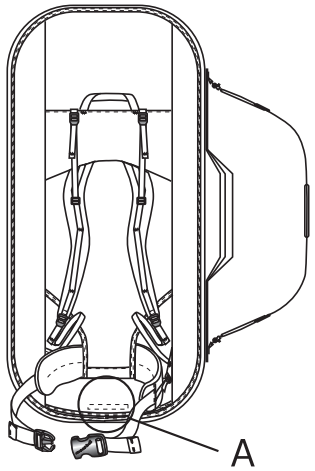
キャリングバッグの使い方

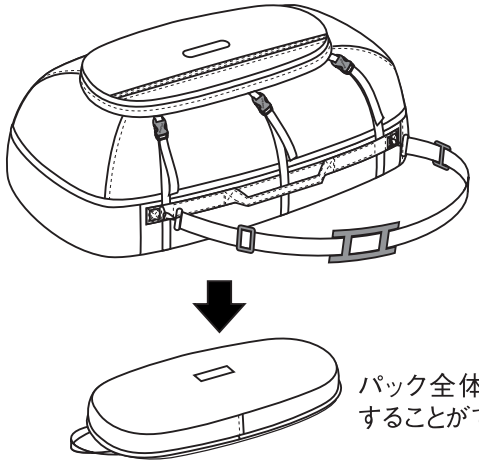
1.

2.

3.

4.





パック全体をアウトポケットに収納することができます。

●まず、船体布を入れてその後フレームセット・小物類をパックに収納し、内側のストラップで固定します。※（バックパックとして使用する際、船体布がパックのフレームとなりますので必ず船体布から収納してください。パック背面のサイズに合わせて船体布をたたむと安定して背負いやすくなります。）
次に、内容量に応じてコンプレッション・ストラップを締めて荷物の揺れを抑えます。

●背面のファスナーを開け、背面システムを取り出せばバックパックとして使うことができます。この時、背面システムを被っていたシートは折りたたんで背面パネル下部のポケット（上図のA）に収納してください。

●カヤックに積み込む際には前面のポケットにパック全体を収納すればコンパクトになります。

6.仕様・その他

修理及びパーツリストについて

●修理及びパーツ、その他に関するお問い合わせ全て（見積もり・納期・クレーム等）につきまして、下記、又は弊社ディーラー迄お願い致します。また、パーツのご依頼の際は、必ず商品名・製造番号・パーツナンバーをご連絡下さい。

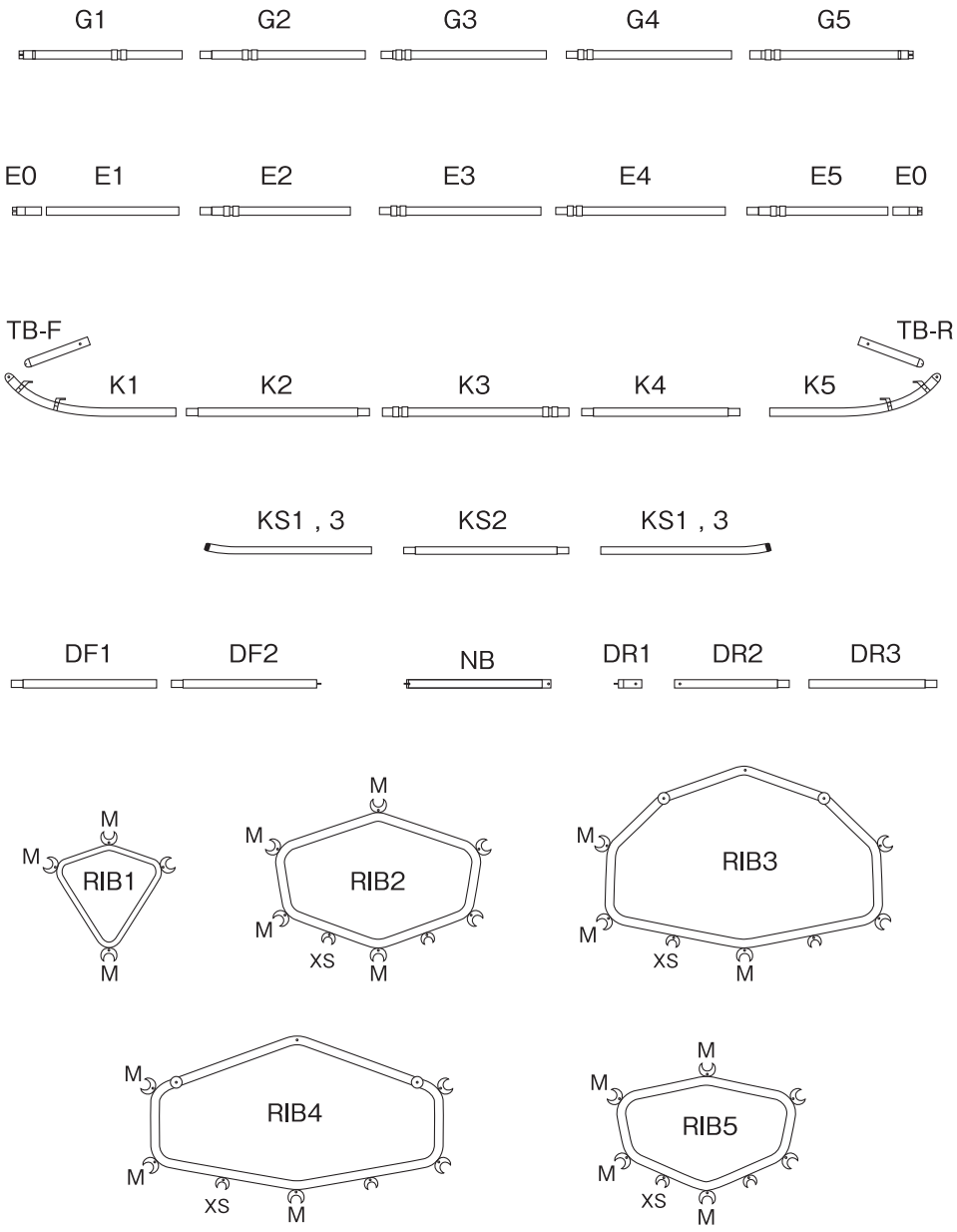
株式会社モンベル 本社/大阪市西区新町2-2-2
【 フォールディング・カヤックに関するお問い合わせ・・・・・
商品・修理・アフターサービス・その他 】
カスタマー・サービス　TEL.06-6531-3544
フリーコール: 0088-22-0031
ホームページ　http://www.montbell.jp

仕様

品番	2341028
商品名	ボイジャー415
全長	415cm
全幅	68cm
コックピットサイズ	76cm×38cm
重量	15.7Kg
収納サイズ	95cm×37cm×33cm
最大積載量	120Kg
別売アクセサリー	ラダーセットボイジャー415
	シーソックススモール

・他にも別売アクセサリーをご用意しております。
詳しくは、カタログかホームページをご覧ください。

ボイジャー 415フレームパイプ各パーツ名称



ボイジャー415パーツリスト
（2010年2月 現在）

NO.	パーツ名
1	G1
2	G2・G3・G4
3	G5
4	E0
5	E1
6	E2・E3・E4
7	E5
8	DF1
9	DF2
10	DR1
11	DR2
12	DR3
13	NB
14	KS1・KS2・KS3
15	K1・K5
16	K2
17	K3
18	K4
19	RIB1
20	RIB2・RIB5
21	RIB3
22	RIB4
23	TB-F
24	TB-R
25	
26	
27	
28	

・仕様につきましては予告なしに
変更する場合があります。

7　保守管理

フレームについて

○「ボイジャー415」を海水で使用し長期間、組み立てたままにしておくと塩分が結晶化してジョイント部分等が固着する恐れがありますので、ご使用前にジョイント部分や可動部分にあらかじめ防錆潤滑（CRC6-66等）を塗布し、2週間に1度は分解しフレーム、リブ全体を真水で十分に水洗いをして塩分を取り除いてください。
収納する際は十分に乾燥させてから防錆潤滑剤（CRC6-66等）をショックコードにかからないように塗布して収納してください。

○フレーム、クロスリブの不自然な曲がりや変形は、漕行性能が低下し、艇全体の強度に影響を及ぼす場合があります。特にへこみを伴う曲がりは危険な状態です。すぐに交換修理してください。

○Kパイプのバウ側とスターン側のAタング（虫の翼のような金具）を止めているボルトがゆるんでいないか時々確認してください。ゆるんでいたら増し締めをします。金具の隙間は0.5m/m位が適正です。

○クロスリブのチャネル（三日月型のパーツ）を止めているビスがゆるんでいないか時々確認してください。ゆるんでいたら増し締めをします。またフレームがはずれやすいのはチャネルの内側が摩耗していることが原因です。痛んでいたら交換してください。

船体布について

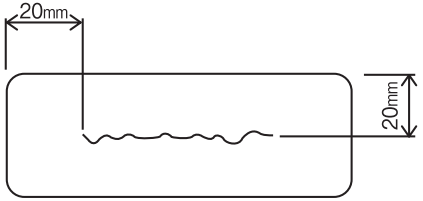
○船体布の汚れは、スポンジやブラシ等で水洗いします。スチールたわし等は船体布が傷つきますので使用しないようにしてください。またシンナー等の溶剤は船体布を侵しますので使用しないようにしてください。洗浄後は十分に乾燥させてから収納してください。乾燥が不十分な場合カビが発生する恐れがあります。また船体布にシリコンが含まれる保護艶出し剤を塗布すると修理用ボンドが接着できなくなりますので使用しないようにしてください。

○テンションテープカバーはテンションテープ本体の摩耗を防いでいます。痛んできたら早めに交換してください。

○ファスナーに砂等が付着したまま使用するとファスナーが摩耗してしまいます。水洗いをして砂等を落としてください。またチェーン部に防錆潤滑剤（CRC6-66等）を少量塗布すると動きが良くなります。その際、防錆潤滑剤が飛散しないように注意してください。

○市販のガムテープをリペアクロス代わりに使用し長時間放置すると、船体布にガムテープの接着剤が残り取れなくなることがあります。溶剤等で無理に剥がすと船体布を傷め場合によっては修理不可能になる場合がありますのでご注意ください。

○船体布の修理方法
作業手順
① リペアをしようとする面の土、ゴミ、油等の汚れをウエスやベンジンで落としておきます。シンナーは船体布を痛めます。
② 船体布側の接着面をサンドペーパー#100で研磨して荒らします。その後もう一度ベンジンを含ませたウエスで油分を取り除きます。
③ 船体布の穴、亀裂の大きさにあわせてリペアクロスをカットします。大きさは穴、キズに対して＋2cm程度を目安にします。



④ 角はまるめた方がより剥がれにくくなります。リペアクロスの接着面をサンドペーパー#100で研磨して荒らしてベンジンで油分を取り除きます。
⑤ リペアクロスの大きさより5mm程度大きくマスキングテープで囲います。
⑥ ボンドを船体布とリペアクロスに均一に塗布します。手にべとつかない程度乾燥させてからさらにもう一度、均一に塗布します。
⑦ もう一度、手にべとつかない程度乾燥させてから強く貼りあわせます。ゴムハンマー等でたたくとより効果的です。
⑧ 接着後、約30分程度で実用接着強度が得られますが、12時間は放置乾燥させてください。圧着し終えてからマスキングテープをはがします。

注意事項

○ボンドは必ず標準添付のボンドまたは「#2351919　アルフェックリペアボンド」を使用してください。それ以外のボンドでは必要な強度が得られません。
○リペアする部分が平面でない場合は（特にK,G,Eフレームの上）セットアップした状態でリペアされると良いでしょう。バウトップやスターンエンドなどリペアクロスがなじみにくい部分は、ガムテープでリペアクロスを3時間程度押さえておきます。
○屋外で作業をする場合、船体布の温度の上がらない日陰での作業をおすすめします。ボンドの温度が上がりすぎるとすぐに乾いてしまい作業しにくくなります。

アルフェック　フォールディング･カヤック
修理依頼書

フリガナ 氏名（またはディーラー名）	修理依頼日
〒　　ー 住所	電話番号
品名	製造番号
商品購入先	
納品希望先住所	
請求書希望送付先	
※修理費用（基本料金･材料代･工賃･その他）の他に、送料自己負担となります。 ※簡単な図を描いて修理希望内容を明記してください。	
※使用日数　　約　　日 ※破損時の状況	※主な使用場所　　川・湖・海
	希望納期日

このシートはコピーしてお使いください